

茨城大学学報

第317号

平成26年10月～平成26年11月



IPCC 第2作業部会共同議長であるクリストファー・フィールド博士（左）が来校されました（H26.11.26）



第65回茨城祭（水戸キャンパス）



多くの児童たちが来場した化学サイエンスショー
（第65回茨城祭）

INDEX

- ◆ 大学戦略・IR室を設置
- ◆ 「JENESYS2.0」のブルネイ学生使節団が本学を訪問
- ◆ 職員採用内定通知書交付式を実施
- ◆ 水戸ホーリーホックとの連携事業、大旗のお披露目
- ◆ 【土曜アカデミー】「登場！桓武平氏—高望王、関東下向の真実—」を開催
- ◆ 農学部が茨城県知事のベトナム訪問団に参加
- ◆ COC事業FD・SDを開催
- ◆ 第1回COC事業連携機関連絡会を開催
- ◆ 理学部が「皆既月食観望会」を開催
- ◆ 学生国際会議 ISCIU10 を開催
- ◆ 第59回茨城県教育研究連盟研究集会を開催
- ◆ 農学部が阿見町内の小学校で食育授業を実施
- ◆ 大学の世界展開力強化事業（AIMS プログラム）におけるインドネシア政府のモニタリング調査団が農学部を訪問
- ◆ 平成26年度学長学術表彰式及び講演会を開催
- ◆ AMラジオ局による大学広報番組の公開生放送を実施
- ◆ ホームカミングデー〈トライアル〉を開催
- ◆ 水戸市長を招き、まちづくりのシンポジウムを開催
- ◆ 平成26年度永年勤続者表彰式・懇談会を開催
- ◆ IPCC 第2作業部会共同議長クリストファー・フィールド博士を招き、国際講演会を開催
- ◆ 名誉教授称号授与式・懇談会を開催
- ◆ COC事業学生向け説明会を開催

茨城大学総務部総務課広報係

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

◆ 大学戦略・IR室を設置

本学は、平成26年10月1日（水）、IR（インスティテューショナル・リサーチ）等に基づく今後の大学運営の戦略を機動的に構築するために、太田寛行副学長（大学戦略・IR担当）を室長として、大学戦略・IR室を設置し、看板掲揚式が行われました。

同室は、三村信男学長が直轄するセクションとして設置され、評価室、総務課大学改革推進室を統合し、IR部門、評価部門、大学改革部門の3部門を置き、教員、事務職員、URA（ユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレーター）を配置した教員と事務職員等の融合組織として、10名を越える規模で構成されています。

同室は、IR活動から得られた客観的データに基づく戦略的大学運営を支援し、大学評価、大学改革、中期目標等の策定支援などを主要業務として活動を開始しました。



左から、堀内室員（課長）、太田寛行室長、三村信男学長、大久保室員（部長）

◆ 「JENESYS2.0」のブルネイ学生使節団が本学を訪問

一般財団法人日本国際協力センター（JICE）が事業を実施する「JENESYS2.0」（アジア太平洋諸国間での青少年交流事業）の一環として、平成26年10月3日（金）、ブルネイ・ダルサラーム国の学生使節団25名が、人文学部を訪問しました。

人文学部生が主催した交流会では、はじめに三村信男学長から「茨大を知り、交流会を楽しんでください」との挨拶があり、続いて杉浦秀行留学生センター准教授や人文学部生、留学生らによる英語での茨城大学の魅力PRや茨大生の学生生活の紹介が行われました。

その後、人文学部生とブルネイの学生らが混合で（5名程度6グループにわかれ）、両国の食文化や文化衣装など与えられたテーマに、双方が英語によるグループディスカッションを行い、お互いの文化について白熱した議論を行いました。各グループの発表では、ブルネイで人気のある話題のスポットや日本の着物などについてプレゼンテーションが行われました。

今回、本学を訪問したブルネイの学生からは「楽しかった」「日本の文化を知れて、素晴らしい経験となった」、人文学部生からは「英語と日本語を使って、積極的に交流ができ、嬉しかった」などの感想がありました。「JENESYS2.0」による海外学生使節団の本学来訪は、本年2月のパキスタンからの学生使節団に次いで2回目です。



グループディスカッションの様子



交流会終了後の記念写真

◆ 職員採用内定通知書交付式を実施

平成 26 年 10 月 3 日（金）、平成 27 年 4 月に採用予定の事務系職員、技術系職員採用内定者の採用内定通知書交付式を実施しました。

これは、採用内定者に対し、大学への理解を深めてもらい、かつ、採用内定者同士の相互交流を目的としたものです。

採用内定者は、袖山理事（総務・財務担当）から採用内定通知書を交付され、歓迎の挨拶を受けた後、現在の国立大学法人の置かれている状況や大学職員としての心構え等についての講話を受け、熱心に耳を傾けていました。



内定者への講話をする袖山理事

その後、三村学長、袖山理事、相原総務部長、本人事課長出席のもと、先輩・中堅・若手職員のほか、内定者と同年度の採用試験を受験し、先行して採用されている新採職員も加わり、自己紹介も兼ねつつ、和やかに懇談をしながら昼食を取り、午後からは、先輩職員等と国立大学の業務内容、職場の様子や雰囲気、社会人となるまでの準備等について懇談形式による質疑応答を行いました。

内定通知書交付式当初は緊張していた採用内定者もすっかりうち解け、職員達へ積極的に質問するなど、大学職員の仕事ぶりや職場について理解を深めることができた様子でした。



先輩職員等と採用内定者の懇談・質疑応答

◆ 水戸ホーリーホックとの連携事業、大旗のお披露目

学内で設立された『水戸ホーリーホック応援ネットワーク』（以下、茨大ホーリーネット）は、水戸ホーリーホック創設 20 周年記念試合である平成 26 年 10 月 4 日（土）のコンサドーレ札幌戦において、多くの教職員、学生、本学 OB の寄附により完成した大旗を、初めて披露し、教職員、学生が一丸となって選手に声援を送りました。

平成 26 年 5 月 18 日（日）に開催された今年度 2 回目の茨城大学招待試合を終えて、本学によるホーリーホック応援をより日常的かつ具体的に示すため、茨大ホーリーネットを中心とした大旗製作プロジェクトが立ち上がり、平成 26 年 9 月に念願の大旗が完成しました。デザインは、教育学部の島田裕之教授が担当しました。

本学では、相互の特性を生かした連携事業を推進することにより、水戸市及び関係地域の活性化及び両者の一層の発展に寄与することを目的として、平成 25 年 3 月に株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホックと連携協定を締結し、茨大ホーリーネットを中心に相互の特性を生かした連携事業を実施しています。

茨大ホーリーネットは、これからも大旗の下、水戸ホーリーホックを応援し続け、選手と学生の交流を行うなど、更なる連携を深めていくことを誓いました。



大旗を振る藤縄明彦理学部教授



大旗のデザイン

（担当：島田裕之教育学部教授）

◆ 【土曜アカデミー】「登場！桓武平氏—高望王、関東下向の真実—」を開催

本学では増改築工事後の図書館リニューアルオープン(平成26年4月)を機に知の交流、地域との共生を積極的に推進しており、図書館が主体となって、平成26年度後期に地域の方と学生たちがともに学び楽しむイベント・講座「土曜アカデミー」(全15回)を企画しています。なお、この企画は平成26年度に茨城大学で採択された文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」の一環にもなっています。

「土曜アカデミー」の第1回目として、平成26年10月4日(土)に「登場！桓武平氏—高望王、関東下向の真実—」を開催しました。

講師は図書館長である高橋修人文学部教授が務めました。茨城の歴史に関する内容であることから、地元の歴史愛好家ら約70名の方が来場し、熱心に聴講しました。

「土曜アカデミー」では教員によるさまざまな講演会や学生による演奏会だけでなく、名作・古典を読んで集まり、教員のレクチャーを受けながらグループに分かれて語り合うブック・カフェやビブリオバトル、さらに地元J2の水戸ホーリーホックの選手や関係者を招いて語り合うイベントといった多彩な内容を予定しています。

本学ではホームページ、パンフレットのほかにも新聞やタウン誌などで積極的に広報を行っており、学外からの問い合わせや新聞社からの取材も多く反響の大きさが感じられることから、今後も地域と交流するイベントを積極的に企画していく予定です。



(上) 土曜アカデミー「登場！桓武平氏—高望王、関東下向の真実—」の様子

(左) 土曜アカデミーパンフレット

◆ 農学部が茨城県知事のベトナム訪問団に参加

農学部（久留主泰朗農学部長）は、平成26年10月5日（日）～10月10日（金）までの期間、橋本昌茨城県知事を団長とする茨城県ベトナム訪問団の一員としてベトナムを訪問しました。

このベトナム訪問は、平成26年3月に国賓として訪日したチュオン・タン・サン・ベトナム国家主席が茨城県を訪問したことをきっかけとして、サン国家主席の招待によるものであり、茨城県とベトナムとの農業・経済を中心とした交流の拡大を目的としています。

今回の訪問では、茨城大学のバイオ燃料等農業技術の海外展開の促進等について、ベトナム農業農村開発大臣をはじめとする政府機関の各高官、地方などとの協議・意見交換などを行いました。

本学は、現在、大学改革において茨城県が日本有数の農業県である特色を生かした農学分野の強化や、アジア地域を対象とした国際化に取り組んでいることから、この訪問の成果を積極的に活用していきたいと考えています。



サン国家主席（中央）、政府高官らと茨城県訪問団による記念写真

◆ COC事業FD・SDを開催

本学は、平成 26 年度採択された文部科学省「平成 26 年度地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」について、平成 26 年 10 月 8 日（水）、COC事業FD・SDを実施しました。

本FD・SDは、茨城大学が地域に学び、地域に還元し、地域と共に成長する拠点となるために、教職員、連携自治体等関係者の共通理解を深めることを目的に開催され、水戸キャンパスの教職員以外に、遠隔授業用システム（VCS）配信により日立・阿見両キャンパスから多数の教職員、また学外から連携自治体等関係者が参加し、活発な意見交換を通じてCOC事業への理解が促進されました。

当日はまず、COC統括機構長である三村信男学長から、「茨城大学が地域の中核的拠点となって、自治体等と連携して地域の課題解決に取り組んでいきたい」との挨拶があり、続いて、内田聡副機構長からCOC事業の全体構想、事業の核となる「COC地域志向教育プログラム」の設立及び公募プロジェクト等について、高橋修図書館長からCOC事業のライブラリーカフェに位置付けられる「土曜アカデミー」について説明がありました。

「COC地域志向教育プログラム」では、茨城の歴史・地理・文化・産業などの学修を通じて、茨城についての理解を深め、地域を多角的に捉える力を身につけることを目的に、全学生を対象とした教養科目「茨城学」などが、連携先の自治体や企業からの協力を得ながら、地域志向系科目として開講されます。地域志向系科目 8 単位以上の取得に加え、地域 PBL 科目における報告書や地域志向科目以外の成績も勘案し、修了者が決定され、修了証が発行されます。

また、公募プロジェクトでは、地域の未来づくりに参画できる人材育成や連携自治体等と協働して地域の課題を解決するための取組として、「地域円卓会議プロジェクト」「地域課題解決型特定研究プロジェクト」「地域人材育成プロジェクト」「地域志向教育支援プロジェクト」という 4 つの学内公募プロジェクトを今後実施し、COC事業を推進していく予定です。



挨拶をする三村信男機構長
(茨城大学COC統括機構)



内田聡副機構長の説明に耳を傾ける参加者

◆ 第1回COC事業連携機関連絡会を開催

平成26年10月8日(水)、COC事業連携機関連絡会(以下、連絡会)を開催しました。本学ではこのほど、文部科学省「平成26年度地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に採択されたことを機に、平成26年9月、三村信男学長を機構長とする「茨城大学COC統括機構」を発足させ、本格的に事業を開始しています。

連絡会は、COC事業を地域にとってより有意義な事業として発展させるため、本事業で連携する自治体・企業等の担当者に参加いただき、組織しています。初の会合となった連絡会では、連携自治体等から20名、本学から11名、計31名が参加し、COC事業の概要と今後茨城大学がCOC事業を通じて実施する諸施策についての説明と協力要請がなされ、連携各機関担当者相互の情報交換と事業への理解・協力体制の構築を図りました。連絡会は、COC事業の円滑な推進に寄与することを目的に、今後定期的を開催していく予定です。



挨拶をする三村信男機構長
(茨城大学COC統括機構)



会議の様子

◆ 理学部が「皆既月食観望会」を開催

理学部の野澤恵研究室では、平成 26 年 10 月 8 日（水）に大学院理工学研究科博士前期課程 2 年の須藤謙人さんが中心となって、教職員及び学生を対象とした「皆既月食観望会」を開催しました。

今回の皆既月食は日本全国で夕方から始まり、夜にかけて双眼鏡や肉眼でも容易に観望できることから、興味のある教職員は大いに期待しており、月の一部が地球の半影に隠れる部分食が始まる 18 時 15 分頃から参加者が集まり始め、月のすべてが地球の本影に隠れる皆既食が始まる 19 時 24 分頃には参加者は 30 人となりました。

この観望会は、学生の研究観測も兼ねており、望遠鏡にカメラを取り付け、月をパソコン上に映し出すことで月が欠けていく様子を確認し、デジタル一眼カメラを使用して一定間隔で継続的に月を撮像することにより、月食特有の色の変化についても観測が行われました。

皆既食時は一時的に雲で月が隠れてしまったが、月食が終わる 21 時 30 分までの間、参加者は月食の美しさを十分に楽しみ、月が赤銅色に輝く神秘的な天体現象を教職員と学生がともに観望するという大変有意義な観望会となりました。



観望する教職員と学生たち



赤銅色に輝く皆既食時の月

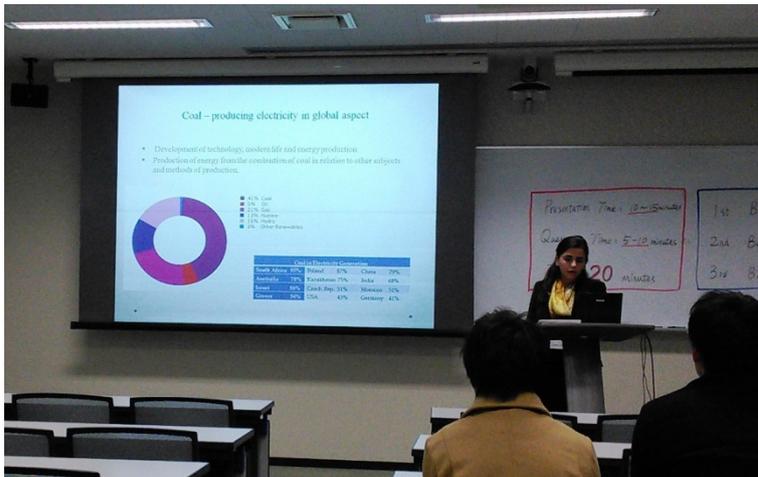
◆ 学生国際会議 ISCIU10 を開催

平成 26 年度で第 10 回目を迎える茨城大学学生国際会議 (ISCIU: International Student Conference at Ibaraki University) は、工学部の大学院生が主体となって、平成 26 年 11 月 15 日 (土) ~16 日 (日) に水戸キャンパス 環境リサーチラボラトリー棟で開催されました。

本会議は、国内外問わず論文投稿者を学生に限定し、発表を英語で行うという学生主体の国際シンポジウムとして 2005 年に設立され、「グローバル化する現代社会をマクロな視点からの確に理解し、国際社会で活躍できる人材の育成」を目的として学生による企画運営で毎年実施されています。

今年は「DIVERSITY」(多様性) をテーマに掲げ、各セッションが異分野からの発表を含むように意図的にプログラムされ、国境のみならず研究分野の境界を越えた議論が活発に行われました。

本会議を通して、コミュニケーション能力の向上や、研究発表することで参加者の研究領域を広げること、また参加者各人の国や研究分野、文化的バックグラウンドなどのバリエーションや境界を越えた国際的な議論ができるなど、学生にとって大変有意義な会議となりました。



発表する海外からの学生



ポスターセッションの様子

◆ 第59回茨城県教育研究連盟研究集会を開催

平成26年10月18日（土）、水戸キャンパスにおいて「第59回茨城県教育研究連盟研究集会」が開催され、茨城県内の教員約600名が参加しました。これは、教育現場、教育行政、大学がともに一体となり、茨城県の教育振興に寄与することを目的として、毎年茨城大学で開催されています。

全体会では、小野寺俊茨城県教育委員会教育長の挨拶に始まり、茨城県教育研究連盟会長である生越達茨城大学教育学部長、茨城県教育会、茨城県教育研究会、茨城県教職員組合の代表らが挨拶しました。続いて、日本近代文学が専門であり、日々教師をめざす学生を国語教育の分野から指導している橋浦洋志教育学部教授による「教師力としてのことばの力」と題した講話が行われました。

全体会に続いて行われた分科会では、実践的事例などを基に研究成果の発表があり、熱心な討論が交わされ、盛況のうちに閉会となりました。



全体会の様子



全体会での講話に聞き入る参加者たち

◆ 農学部が阿見町内の小学校で食育授業を実施

農学部は、平成 26 年 10 月 23 日（木）と 11 月 25 日（火）に阿見町内の小学校 5・6 年生を対象に食育授業を実施しました。これは茨城大学と阿見町の協働事業として実施したもので、農学部の教員・学生の他、近郊の茨城県立医療大学の教員・学生も参加しました。

10 月 23 日は「阿見町お米の日」と題して、農学部の新田洋司教授から電子顕微鏡によるご飯の拡大写真の紹介があり、児童たちは滅多に見られない写真に大変興味を示し、茨城県立医療大学の教員からは「ごはんで元気になる方法」の講義でご飯を食べることの大切さを学びました。

11 月 25 日は「阿見町はくさいの日」と題して、農学部と茨城県立医療大学の学生が授業を進め、地元農協の職員から、白菜を題材にその種類や生育時期などの説明があり、白菜という野菜は、実は奥が深いという話に関心を示していました。

食育授業は、茨城大学と阿見町との協定及び毎年定期協議会で検討され実施してきましたが、近郊の県立医療大学との連携によりさらに充実した内容となっており、今後も農学部の地域貢献の柱として実施していく予定です。



小学生へ授業を行う新田洋司教授（農学部）



小学生へ授業を行う農学部と県立医療大学の学生ら

◆ 大学の世界展開力強化事業（AIMS プログラム）における インドネシア政府のモニタリング調査団が農学部を訪問

平成 26 年 10 月 27 日（月）に、大学の世界展開力強化事業（AIMS プログラム：ASEAN International Mobility for Students Programme）のモニタリング調査として、インドネシア教育文化省関係者及び BINUS 大学、Sriwijaya 大学関係者を中心とするモニタリング調査団が阿見キャンパス（農学部）を訪問しました。

調査においては、本学から三村信男学長、太田寛行副学長、大久保武農学部長代理及び農学部 AIMS 担当教員が出席し、大学概要・国際化の取り組みや、2014 年度に設置した AIMS プログラム「地域サステナビリティコース」についての説明があり、BINUS 大学及び Sriwijaya 大学関係者からは、各大学の概要説明等があり、意見交換を実施しました。

意見交換に続いて、AIMS プログラムへ参加希望の日本人学生や、現在茨城大学に滞在中の AIMS プログラム受入留学生が参加した学生セッションが行われました。学生セッションでは、BINUS 大学の Laily 氏からインドネシアにおける AIMS プログラム実施状況の説明があり、質疑応答では、インドネシアと日本における教育システムの違いなどについて積極的な議論が交わされ、留学を希望する学生にとって、自身が留学する際に参考となる大変有意義な学生セッションとなりました。

その後、モニタリング調査団は AIMS プログラム受入留学生が実際に利用している図書館、学生宿舎や研究室等の施設見学を行い、調査を終了しました。

本学では本調査を通じ、インドネシアにおける AIMS プログラムの推進状況を把握することが出来たことにより、今後のグローバル化戦略の推進に繋がりたいと考えています。



三村信男学長及び太田寛行副学長を
始めとした、茨城大学教員との懇談



BINUS 大学の Laily 氏によるプレゼンテーション

◆ 平成26年度学長学術表彰式及び講演会を開催

平成26年11月13日(木)に水戸キャンパス(バーチャルキャンパスシステムを利用し、日立キャンパス及び阿見キャンパスへもリアル配信)において、茨城大学学長学術表彰式及び講演会を開催しました。

学長学術表彰制度は、先進的又は独創的な研究を実施している研究者の特筆すべき研究成果を称え、その研究成果と研究内容を学内外に広めることにより、教員の研究意欲の向上を図り、もって大学の研究の活性化と更なる発展を目指すことを目的に設けられたもので、平成21年度から実施されています。

表彰式では、「コンクリートの破壊力学に基づく等方性損傷モデルの定式化とその性能評価」に関する研究において、計算工学の発展に顕著な貢献をしたと認められ今後更なる進展が期待されるとして、工学部の車谷麻緒准教授に対して、奨励賞として表彰状と記念品の盾が授与され、三村信男学長より「かねてより時間を惜しまず、熱心に研究に取り組む姿を拝見していました。これを契機として、今後の更なる活躍を期待しています。」との祝辞がありました。

引き続き行われた講演会では、学長並びに教育研究評議会委員等が出席し、車谷准教授から今回受賞対象となった研究内容についての発表がありました。講演後、研究内容についての質疑応答が活発に行われ、傍聴者からは、今後研究内容を是非人々の生活に役立てていただきたい等のコメントがありました。

本学では、これらの研究成果が科学技術の研究開発の進展に寄与され、また、大学の使命である「学術研究の蓄積と形象」と「先進的な研究成果の創出」の実現に向けて貢献していきたい考えです。



左から尾崎副学長(学術)、車谷准教授、
三村学長、馬場工学部長



講演会の様子

◆ AMラジオ局による大学広報番組の公開生放送を実施

広報室は、学園祭開催日（平成 26 年 11 月 15 日）に茨城県を放送対象地域とする AM ラジオ局（IBS 茨城放送）を利用したラジオ広報番組「茨城大学 1DAY STUDIO ～ 茨苑祭 DE 土曜王国（サタデーキングダム）」を 5 時間にわたり生放送しました。

この放送は、茨城大学インフォメーションラウンジを使用した公開生放送で行われ、Ustream によるライブ配信も行いました。

番組では、茨城大学学生国際会議、卒業生ホームカミングデー、人文学部市民共創教育研究センターシンポジウムの開催などの広報 CM が流れ、高橋修図書館長によるリニューアルした図書館、地域住民を対象とした「図書館土曜アカデミー」、Jリーグの水戸ホーリーホックとの連携の紹介、内田聡学長特別補佐（COC 統括機構副機構長）による COC 事業の紹介、米倉達広副学長・広報室長による茨城大学の紹介、地域連携の取り組みの紹介が放送されたほか、学園祭の様子やサークルの紹介などを放送しました。

公開生放送スタジオには、地域住民の方が多数訪れ、ラジオで放送される茨城大学の取り組みについて興味深く聞き入っており、インフォメーションラウンジに展示されている研究成果や東京オリンピックとの連携協定紹介のパネルなども見学していました。



IBS 茨城放送による公開生放送

◆ ホームカミングデー〈トライアル〉を開催

平成 26 年 11 月 16 日(日)、水戸キャンパス図書館ライブラリーホールにおいて、全学企画としては初めての「ホームカミングデー」を開催しました。

これは、平成 26 年 10 月に開催された茨城大学同窓会連合会総会において学園祭当日の開催が要望されたことをきっかけに企画され、今年度は同窓会連合会協力のもと“トライアル”として実施しました。

当日は、影山俊男理事（社会連携担当）からの開催の趣旨説明を兼ねて開会挨拶があり、福地省行茨城大学同窓会連合会会長からは大学と同窓会の連携促進などに関して挨拶がありました。続いて、三村信男学長から、「本学が今後、地域への貢献をより一層推進するにあたり、地域づくりの拠点となるべく広く社会から信頼を得るには、その最大の理解者である本学卒業生や同窓会の協力は不可欠であることから、まず大学の現状をお伝えし、大学の取り組みをよく知っていただいた上で、率直かつ忌憚のない意見や力強い支援をいただきたい」との挨拶があり、大学の近況や取り組みなどについて説明を行いました。

その後、参加者との質疑応答や意見交換があり、参加者からは、大学としての研究成果の積極的な公開や社会への還元、地域創成など自治体がかつ課題への大学としての役割の実践、地域と学生の連携事業活動の永続的な展開や、そういった事業に積極的に取り組む学生の育成及び輩出など、様々な要望や期待が寄せられたほか、学生時代の思い出などが語られました。また、次回ホームカミングデーについて、研究室訪問や研究内容の紹介、キャンパス毎の開催などの提案があり、設立 10 周年を迎える同窓会連合会とも連携して開催することが確認されました。

最後に、リニューアルされた図書館の見学を行って散会となったが、参加者は各々昔を懐かしみながら茨苑祭（茨城大学学園祭）を散策していました。



説明をする三村信男学長



挨拶をする福地省行茨城大学同窓会連合会会長

◆ 水戸市長を招き、まちづくりのシンポジウムを開催

人文学部市民共創教育研究センターでは、平成 26 年 11 月 16 日（日）に「水戸・中心街を創りなおす ―商業中心から生活中心へ―」をテーマに水戸キャンパス理学部インタビュースタジオを会場としてシンポジウムを開催しました。シンポジウムは、学園祭（茨苑祭）に併せて開催したもので、内外から約 100 人の参加がありました。

シンポジウムでは、高橋靖水戸市長が「にぎわいのある安心快適空間・みと」をテーマとした水戸市のまちづくりの講話があり、「コンパクトシティづくりと自転車都市」を目指すことが表明されました。

さらに、水戸商工会議所から市民アンケート等に基づく中心街の将来構想「コンパクトシティをめざして」が提案され、NPO 法人コモンズから「障害者に優しい中心街づくり」の重要性が指摘されました。

パネルディスカッションでは、人文学部教授の斎藤義則センター長がコーディネーターを務め、水戸商工会議所（商業経営）、ホテル経営者（商業経営）、NPO 法人（市民活動）、人文学部 3 年女子学生（市民活動）、茨城新聞社（報道）、水戸市役所（行政）、田中耕市准教授（大学・学識経験者）がそれぞれの立場から意見を述べ、討論が行われました。さらに、同センター研究員 5 人から、まちづくり、大学の役割等に関する各専門分野から見たコメントがなされました。

最後に、斎藤センター長が「中心街のにぎわいを取り戻すためには、これまでの商業中心に加えて市民生活の延長の場としての新たな役割を付加することが大切で、その計画策定と実現化には市民参加が欠かせない。」と締めくくりました。



高橋靖水戸市長による講話

◆ 平成26年度永年勤続者表彰式・懇談会を開催

永年勤続者表彰式が平成26年11月21日（金）、事務局第2会議室で行われ、役員出席のもと、三村信男学長から被表彰者一人一人に表彰状が手渡され、あわせて記念品が贈られました。

永年勤続者表彰は、永年（勤続20年）にわたり勤務し、職務に精励された教職員を表彰する制度で、平成26年度対象となる被表彰者は11名でした。

表彰式においては、三村信男学長から祝辞として、永年の労へのねぎらいと、今後の活躍への期待が述べられ、これに対し、被表彰者を代表して教育学部附属中学校の 高橋教諭 が謝辞を述べられました。



謝辞を述べる高橋教諭

表彰式に引き続き、昼食を取りながら懇談会が開催され、各理事からの祝辞をいただきました。また、各被表彰者からの挨拶が行われるなど、終始和やかな雰囲気の中で歓談が行われました。



表彰式後の記念写真

被表彰者（50音順、敬称略）

荒川 真（工学部技術部[職員]）、小沢 浩（附属中学校[附属学校教員]）、
金澤浩明（工学部技術部[職員]）、菊池昌彦（学務部学務課[職員]）、
崎野純子（工学部技術部[職員]）、櫻井幸子（附属特別支援学校[附属学校教員]）、
佐藤宗夫（附属中学校[附属学校教員]）、関 貴美江（総務部
労務課[職員]）、高橋文子（附属中学校[附属学校教員]）、藤井とし子
（附属小学校[附属学校教員]）、安田和人（附属小学校[附属学校教員]）

以上 計 11名

◆ IPCC 第2作業部会共同議長クリストファー・フィールド博士を招き、国際講演会を開催

本学では、平成26年11月26日(水)、国連の「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」第2作業部会共同議長であるクリストファー・フィールド博士を招いて、茨城大学講堂にて国際講演会を開催しました。

国際講演会に先立ってクリストファー・フィールド博士が三村信男学長を表敬訪問し、学長室にて懇談が行われました。

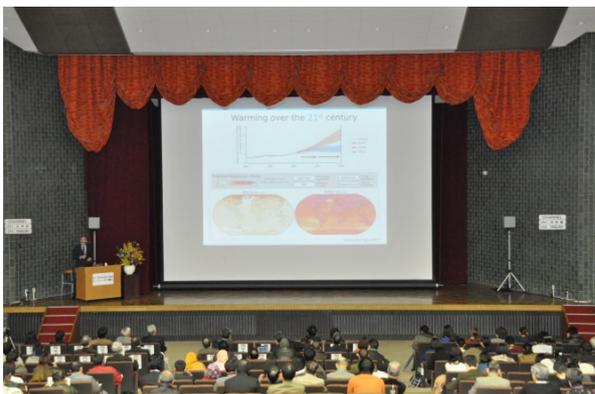
国際講演会は、まず IPCC 議長であるラジェンドラ・パチャウリ博士からのビデオレター上映があり、その後「地球温暖化の今とこれから」と題して、クリストファー・フィールド博士による基調講演が同時通訳にて行われました。

基調講演では、気候変動の影響と適応策、さらに緩和策について、2014年に公表された IPCC 第5次評価報告書に基づく最新の科学的知見の紹介がありました。

400名を超える参加者からは、「途上国における気候変動対応策と持続可能な発展のバランス」、「エネルギー選択のあり方」、「IPCC 第5次報告書で気候安全保障が取り上げられた経緯と残された研究課題」、「今後の学生生活へのアドバイス」など、多岐にわたる質問が寄せられました。フィールド博士は、それらの質問に丁寧に回答していただき、講演会は盛況のうちに終了となりました。



左からクリストファー・フィールド博士、三村信男学長



国際講演会の様子

◆ 名誉教授称号授与式・懇談会を開催

平成26年8月に任期満了により退職された池田幸雄前学長及び田代尚弘前理事・副学長、神永文人前理事・副学長に対する茨城大学名誉教授称号授与式が、平成26年11月26日（水）に事務局第2会議室で行われ、関係者出席のもと三村信男学長から称号記が授与されました。

称号授与式に引き続き懇談会が行われ、近況報告を交えながら終始和やかな雰囲気の中で歓談が行われました。



称号記を授与される池田名誉教授

平成26年9月1日付けで茨城大学名誉教授となられた方は、次のとおりです。

元学長 池田幸雄

元理事・副学長（教育） 田代尚弘

元理事・副学長（学術） 神永文人

以上3名（敬称略、元所属別・50音順）



称号授与式後の記念写真

◆ COC事業学生向け説明会を開催

平成26年11月26日(水)、在校生を対象にCOC事業学生向け説明会(以下、説明会)を開催しました。本学は、文部科学省「平成26年度地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に採択されたことを機に、平成26年9月、三村信男学長を機構長とする「茨城大学COC統括機構」を発足させ、本格的に事業を開始しています。

説明会は平成27年4月からの地域志向教育プログラムの開始を控え、直接的な対象とならない平成26年度以前の入学生に対して、COC事業への理解促進を目的とするもので、個人・団体の代表など33名の学生が参加しました。

説明会ではCOC事業の概略に続き、事前に参加を呼びかけていた「COC事業学生地域交流隊」というサークルについて説明が行われ、説明会出席者33名のうち26名の学生の参加を得て発足しました。「COC事業学生地域交流隊」は、COC事業について興味・関心がある学生を募り、グループ化するのもので、同事業への積極的な参加を促し、同事業を通じて学生の社会連携活動を発信するとともに、学生の目線からの意見・提案を集約することを目的としており、今後SNS等を活用し、サークル活動を推進していく予定です。

本学では、COC事業のシンポジウム、地域円卓会議、ライブラリカフェなどを通じて、学生も含め全学一体となってCOC事業を展開していきます。



内田聡 COC 副機構長から説明



説明会の様子